

Safety Report セーフティレポート 子ども

地域の交通安全指導者たちが工夫して実施する非接触型の交通安全教室

昨年から続くコロナ禍によって学校の休校や分散登校が相次ぎ、子どもたちが従来のような交通安全教育を受ける機会は減っている。この状況を打開しようと、地域の交通安全指導者たちはコロナ禍に対応するための教育内容や手法を工夫している。今回は、静岡県と大阪府で実施された非接触型の交通安全教室の事例を紹介する。

事例① 静岡県浜松市 中学生への交通安全教育

10月1日、(一財)静岡県交通安全協会 細江地区支部が浜松市立引佐南部中学校の全校生徒を対象に非接触型の交通安全教室を開催。同校のパソコン教室から交通安全指導員が独自の映像教材を配信し、それを生徒たちが各クラスの教室に設置されているモニターで視聴するという形態で行われた。

同支部交通安全指導員 鈴木利枝さんは「新型コロナウイルス感染および拡大リスクを低減するため、分散型の交通安全教室を提供できる体制を整備しました」と話す。

導入では、Hondaが開発した小学校高学年・中学生向けプログラム「将来社会で活躍する君たちへ※1」に収録されているA八体験※2を活用。進行を担当する交通安全指導員 小杉

ひかるさんが「今からモニターに映し出される写真の中で3カ所が徐々に変化していきます。それを見つけてください」と話しかけ、これから始まる交通安全教室への関心や集中力を高めてもらう。

その後、生徒は「自転車〇×テスト」(20問)にチャレンジ。10分後に交通安全指導員が答え合わせと解説を行う。自転車の通行区分に関する問題では、Hondaの「高校生交通安全教育指導マニュアル※3」の資料を表示しながら、自転車が走るべき場所を説明。「自転車は車道の左側端を走るのが原則です。自転車通行可の標識がある場合などは歩道も走れますが、歩道は歩行者のためのものです。歩行者の邪魔になりそうな時は止まる、降車して自転車を押して歩くなど、歩行者に優しい運転を心がけてください」とアドバイスした。最後に「相手や周囲にも気遣う心、思いやり



引佐南部中学校の1～3年生9クラスの教室に映像教材を配信

の心を忘れずに自転車に乗ってほしいと思います」と締めくくった。

同校で交通安全を担当している教諭 山下庄一さんは「当校では生徒の約8割が自転車通学なので、自転車教育は不可欠です。春には実技指導をやっていただきました。生徒はルールを守らなければいけないことはわかっています。しかし、具体的なルールや、どのような場面で注意が必要かを十分に理解している生徒は少ないと思います。2回目の今日は、交通ルールや事故防止に対する理解が深まったはず」と、今回の交通安全教室を評価した。非接触型の場合、学校の設備等の環境が同じではない上、学校からの希望も様々で内容や進め方を統一することが難しい。そのため、1校ずつ柔軟に対応していく必要があると鈴木さんはいふ。「教室のモニターに映し出す資料の文字の大きさや色などは、後列の席か

らでも見やすいように工夫しています。担任の先生によっては私たちの話を黒板にまとめ、振り返りを行っていただけるようです。通常の授業に近い形態なので、体育館などでの集合教育より生徒も集中できていると感じます。緊急事態宣言期間中に実施予定だった学校は中止となりましたが、その後、延期日を設けていただけました。交通安全に対する学校の熱心な姿勢に感謝しています。

※1 社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことで、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事ととらえ、事故に遭わないようにすることを目的とした交通安全教育プログラム。「歩き」「自転車」「標識」の3つのテーマで構成されている。詳細は以下のホームページ参照。
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/teaching_materials/child/

※2 ある画像を一定時間提示し、その間に画像の一部を消すなどして変化点を見つけてもらうというもの。

※3 高校が主体となって交通安全教育を実施するためのマニュアル。詳しくは以下のホームページ参照。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/highschool/>



交通安全指導員が校内のパソコン教室から指導



「自転車〇×テスト」を生徒に配付し、解答してもらう



モニターに解説図を表示して答え合わせと解説を行う



クルマの運転席の死角などについて画像を使って説明

事例② 大阪府茨木市 小学生への交通安全教育

大阪府茨木市は、小・中学校での交通安全教室を今年度はすべてリモートで実施している。小学校の交通安全教室を秋に行っているが、9月は緊急事態宣言の延長で分散登校となっていたため、10月から交通安全教室ができるようになった。

交通安全教室は同市の交通安全教育推進員2名と茨木警察署の警察官1名、市職員1名がチームで担当している。昨年度は4名が小・中学校の体育館などで指導する様子をリモートで配信していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、小・中学校における交通安全教室はすべて市役所から配信する形態となった。そして、これに対応するための配信用の映像教材を新たに制作したのである。

10月5日は、茨木市立山手台小学校の1年生(3クラス)と4年生(3クラス)を対象にした交通安全教室を実施。茨木警察署 東元さんが進行役となり、映像教材を教室のモニ

ターに表示しながら説明した。

1年生は歩行がテーマ。歩行者用信号機の色の意味や道路を横断する時の安全確認の重要性を説明した後、学校周辺にある見通しの悪い交差点など危険箇所の写真を映し、東元さんが「このような場所では何に気をつけますか?何が危ないと思いますか?わかる人はいますか?」と児童に問いかける。児童の一人がカメラの前に出てきて、「クルマや自転車がくるので右、左、右を見る」と答える。東元さんは「そうです。ここには『止まれ』と書いてあるマーク(標識)があります。このマークがあるところは特に注意が必要だと覚えてください。歩いている人も必ず止まって、右、左、右を確かめるようにしましょう」と解説した。

もし安全確認をせずに道路に飛び出してしまった時はどうなるのか、それを再現した映像を児童に見てもらう。さらに、模範の映像で正しい安全確認の方法を児童に示した。また、信号機のない横断歩道を渡る時は、手を上げて渡りたいという意思表示をすること、クルマが止まった時はドライバーが手などで



茨木市役所内からリモートで交通安全教室を実施の様子。左から交通安全教育推進員 若山さん、齊藤さん、茨木警察署巡査部長 東元さん

「お先にどうぞ」と合図したら渡り始めることを補足した。

その後、自転車に関する映像教材を活用し、4年生の交通安全教室が行われた。映像教材制作の中心となった交通安全教育推進員2名は「この教材には、コロナ禍前に対面でやっていた内容をできるだけ盛り込みたいと考えました。よりわかりやすく見せるため、自動車教習所などで撮影もしました。

Hondaの『将来社会で活躍する君たちへ』の飛び出し事故の再現映像がわかりやすかったので取り入れています」と話す。「パソコンの画面を通じて子どもたちが真剣に視聴したり、一生懸命答えようとする姿勢が伝わってきました。しかし、これだけでは実技指導ができないという課題は残ります。早くコロナ禍が終息して、子どもたちの前で指導ができるようになることを願っています。



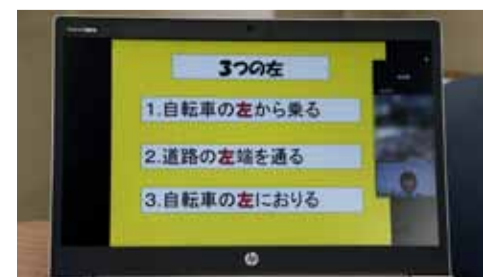
学校周辺の危険箇所の写真を使い、どうすれば安全かを考えてもらう



飛び出し事故の再現映像を見せ、安全確認の重要性を伝える



横断歩道の正しい渡り方など模範を示す映像は自動車教習所で撮影



4年生の交通安全教室では「3つの左」を強調教習所で撮影